

## 株主・投資家の皆様へ

平素より弊社グループに多大なご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

私は、「時代とは、人間の行動動機が作り出す社会現象である」と考え、人々の行動動機が変われば時代も変化するのだと思いつつながら、再資源化をはじめとする環境事業に取り組んできました。時代は豊かさを求めます。そして、遊ればそもそも人類が誕生したとき、生きていくために行った行為は「採取」でした。人の「採取」行為は、生命の維持に必要な食料の「採取」から始まり、食料が安定的に採取・確保できるよう自ら栽培を始め、農業革命になります。しかし、技術発達により飢餓の恐怖から解放された先進国ですら、未だに資源を「採取」し、「採取」したものを無駄にするような生産を行っています。この無駄は、従来の意味での「豊かな社会を創る」という錦の御旗のもとで行われ、同時に資源枯渇という豊かさとは真逆の方向に導いています。

自然の未利用資源、社会の未利用資源、人間の未利用資源の活用を我々は『創資源』と名づけました。資源を採取する社会から生産する循環社会へ。無関心になった地域社会から関心を持つ地域活性へ。産業単位で発想する非効率な機能の部分最適化という価値観からソーシャルインクルージョンという社会単位での総合最適化の価値観へ。時代は、信頼性や関係性を求めています。政治家が出来ないなら、事業家が信頼性や関係性を具現化しなければと思います。なぜなら、工業的経済大国を経験した日本は、幸福も良い部品を組み合わせれば良い商品が出来ると勘違いしているかのようだからです。良い学校を卒業して、良い給料をもらえれば良縁に恵まれ、良い教育を子供に受けさ

せられる、そのような家庭は幸福であるとしています。しかし、現実にはそのような家庭が、裕福な家庭で幸福とは限りません。ある人は、ただひたすらに自らを不幸な境遇にいと嘆きます。また、ある人はこう考えます。境遇がその人の幸福を作るのではなく、生きているだけで意味がある。無念な思いで散っていった人々の事を思うと境遇を嘆いていたら恥ずかしい。一つ一つ新しい境遇を作り続けることが、彼らに報いる唯一の方法なのだ。

事業家は、いわば境遇という外部環境に振り回されることがあっても、真の事業家は、生きているだけで何か関係性は作れると思うものです。今こそ、境遇を嘆く世の中に良い関係性を増幅させて、信頼を蓄積させ、未利用な資源を創る『創資源』の時代にしなければなりません。地域の社会的課題と経済を担う社会企業が集積し、人間同士のより良い関係性をつくりあげる。それが、持続可能社会の設計図なのです。

我々の事業活動の安定基盤作りは、国内外の市場の変動要因が続く中、徐々に形になっています。津波で大きな被害を出した宮城県南三陸町に於いては、復興計画の一環として、「木質バイオマスエネルギーに係る実証調査業務」や環境省から「平成24年度特定被災地方公共団体に特化した沿岸地域復興資源循環プラン策定・実証業務」を受託し地域循環モデルのノウハウを獲得しました。

一方、市場変動要因が多いとはいえ総合的に環境市場はまだまだ大きく60兆円規模以上ある中で、主たる地上資源事業の新規受注と既存失注が均衡しながらダイナミックな市場獲得が出来ていない結果を重く受け止め、業態改革を断行しております。まず、環境市場は部分最適でなく総合最適の市場ニーズに変化していますので、環境業務を網羅し

た総合環境ソリューションを執行するべく、営業面の業態改革を進めています。更に、環境市場における環境コスト削減と環境リスク低減のニーズに対して効果的なソリューション提供を行うため、専門家集団の個別対応ではなく、集団での専門対応を行うよう、個人評価をやめチーム評価にシフトする人事の改革も進行中です。

2013年度決算期には、東北地域の市場開拓、茨城・川崎・蒲郡・姫路・北九州をつなぐ循環資源プラットフォームの完成、総合環境ソリューション営業の確立、海外展開の実行というアミタグループの事業基盤安定化が目に見える形となる計画です。着実に進歩した姿を構築し、創資源産業として、持続可能社会の実現に貢献する所存です。

今後ともご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

平成25年3月26日  
アミタホールディングス株式会社  
代表取締役会長兼社長  
熊野 英介



熊野 英介